# 会　　議　　録

| | | |
|---|---|---|
| 付属機関又は会議体の名称 | | 教育に関する事務の点検・評価委員会（第２回） |
| 事務局（担当課） | | 教育委員会事務局　教育総務部　教育総務課 |
| 開催日時 | | 平成23年6月23日（木）午前10時45分～午後2時 |
| 開催場所 | | 豊島区立千川中学校、豊島区立朝日小学校 |
| 出席者 | 委員 | 飯塚　峻委員長、壷内　明委員、和田　健男委員 |
| | 関係者 | 教育総務部長、学校運営課長、学校施設課長、統括指導主事 |
| | 事務局 | 教育総務課長、教育総務課庶務係長、教育総務課主任主事 |
| 公開の可否 | | (公開)・非公開・一部公開　　傍聴人数　０人 |
| 非公開・一部公開の場合は、その理由 | | |
| 会議次第 | | 1. 学校視察<br>2. 学校視察評価<br>3. その他 |

# 審議経過

**１．学校視察**

＜各委員、関係者、事務局による学校視察を実施＞

**２．学校視察評価**

**①千川中学校**

飯塚委員長：千川中学校のＩＣＴ機器の活用を視察してみて、いかがでしたでしょうか。

壷内委員：視覚に訴えるということで教科書と、１つテレビが入ったということで、子どもたちにインパクトを与え、記憶に残る部分というのは結構あると思います。ますます子どもと教師の一体感というものを感じ、授業を見させていただきました。子どもと教師の双方向のやりとりによる子どもの反応が電子黒板にどういうふうに生かされていくのか、これが大きな研究課題だと思います。今は教材ソフトが入っていて、いわゆる投影機みたいな使い方ですので、あれがお互いに、今度は生きた教材として電子黒板を使えれば、双方向のコミュニケーションができ、相当大きな効果があると思います。あれだけ大きいテレビの教室での管理、先生によっては相当ご苦労するのではないかと思います。入り口の部分にあれだけ大きなテレビがあり、わんぱくな子どももいますから、並大抵ではないと思います。

和田委員：パソコンを先生がやると授業が途切れてしまうという感覚がすごくあったのですが、今日はテレビに映して見ていたので、そこまでは感じませんでした。ソフトが発達してきて、操作によって途切れるということは、今はそれほどないのでしょうか。

千川中学校校長：先生方の使う前の研究、研修の成果とは一致しないと思います。ですから、今、理科室に置いてあるのは本当に理科の教員たちはみんな堪能な者なので、今日はたまたま静止画像の利用でしたけれども、動画を使ったり、太陽の動きなどを撮ったものを、速度を上げて見せるような形で使いたいと考えています。電子黒板の場合には、直線を引っ張ったり閉じたり書き込んだり、あの教室ではそのようなことができます。今日は別にあえて作らなくていいと指示したので、本当にそのまま、いつものままの感じです。だから、明日来ていただいても、連絡なくいつ来ていただいてもあんな感じでの利用は間違いありません。ただ、本当に電子黒板となると、それ以上の機能があるものを使い切れるかどうかは、やはり日ごろから教員が触れる習慣を付けないといけないと思います。ですから、中学校の場合には教科の担当で授業が変わっていますから、小学校のように担任がその教室ですべてをやるわけではないので、全部の教室に電子黒板が入っていたとしても、そんなに使い勝手が上がるのかは疑問です。それよりは電子黒板を中学校としたら、今みたいな理科室や美術室や、それぞれの専科の教室にあれば、専科の教員がそこで教材研究をしながら準備をしたときに、というふうな使い勝手はできるという気はします。

教育総務部長：質問させていただきたいのですが、デジタル教材というのは、市販のものを購入されたのでしょうか。

千川中学校校長：デジタルもテレビも、まず一つは区のほうで一斉導入していただいたソフトがかなり準拠していますので、それをフルにまず使おうと思っています。
教育総務部長：あれは単に教科書の中身を画面に入れて映すというのが主な目的なのでしょうか。
千川中学校校長：ベネッセのソフトに学習用ソフトが入っています。それがもうほとんど教科書と同じように単元ごとに整備されて各教科があります。そこを立ち上げていくと、毎回きちんと単元を見て設定をしなければいけませんが、もうあの中に入っていますから、それを今日は使っています。
教育総務部長：子どもたちが教科書を開いていて、同じページの拡大がテレビ画面に出ているだけなのではないでしょうか。
千川中学校校長：それはソフトを使っています。東京書籍なら東京書籍の教科書のデジタル版を使ったり、またはそれに準拠した資料を購入したりして使っています。
教育総務部長：教科書で開いているページと同じ画面が出ているというのはどんな効果があるのでしょうか。
千川中学校校長：子どもたちに、例えばあれがもしないとしたら、教員が自分の持っている教科書をこうやって見せて、「ここの部分にこういうのを書いたらね」または子どもに「何ページのその上の図はこうだね」と、言葉で説明しなきゃいけないものを画面に出ていれば、「この図のここの部分がこうなんだ」という説明は容易になると思います。それがまして電子黒板であれば、「ここをチェックだよ」と言って、囲んだり色を付けたりということが可能になりますから、それのほうがまたさらに使い勝手は上がると思います。
教育総務部長：教科書の中身を先生が子どもたちに理解させるために、いろいろな工夫をされていると思います。自分で立体の図形の模型を作ったり、そういうことも小学校のほうではされています。そういう理解をさせるための工夫を、例えば電子黒板で、それ用のデジタル教材化して使うというのは、こちらの学校では独力でできるのでしょうか。
千川中学校校長：数学の教員に堪能な者がいて、例えば黒板で数直線を描くときにフリーハンドで、毎日やれば描けるようになりますけれども、その辺がデジタルのこの中にはマス目が付いたような黒板を引っ張り出せば、例えば反比例の説明も、教員が定規を当てて、本当に正確かどうか分からないものを描くのであれば、この点とこの点を結ぶ直線ということで引くと、きちんとそろいますので、そういう点では非常に正確なものは、教員のアイテムとして使うことが可能です。
教育総務部長：デジタルテレビでもソフトを導入すれば電子黒板化することは可能なのでしょうか。
千川中学校校長：最近はそのような開発が進んでいるという話は以前に聞いたことがあります。
教育総務部長：全部をいっぺんに電子黒板化しても、今の現状でそれを有効に活用できる先生は限られてきてしまいますね。

千川中学校校長：そうですね。ですから、本校で言うならば、まずこれから先の整備をお願いするとすれば、玄関でお見せしたように、学校の中でテレビまたは電子黒板が使えるというのは、必ずしも教室だけではないということです。例えば、雨の日などの傘の注意であるとか、走ってはだめだというようなことも、もし廊下にデジタルテレビ的なものがあれば､どこででもLANがあって電波で飛べるような環境になっているということが先で、教室に必ずしもデジタルテレビ、パソコン、電子黒板があることが最優先ではない気がします。さらにその上で教育的に活用するとすれば、やはり教室だと思います。ただ、中学校においては、教室はテレビを置いて一斉配信で、ああいうふうなものができる環境整備のほうをしていただけるとありがたいと思っています。あとは特別教室に今度は教科のソフトと、さらに使い勝手を考えるならば、そこは電子黒板的なほうがいいと思います。
教育総務部長：特定の教室は電子黒板を使って授業を受けられるというふうに決めたほうがいいのでしょうか。
千川中学校校長：そうですね。ですから、今度は工事が始まると、今お見せした部屋を理科室にしたりしますので、そうするとまたテレビを下ろしてこなければいけません。非常に重たいものなので、そういうふうに考えると、各フロアにテレビなり電子黒板が 1 台、2 台あれば、キャスターが付いていますから運ぶことは容易になります。電子黒板を全クラスで一斉に使っていることはないので、各フロアに 2 台とか 1 台あれば、移動が可能になります。それから、先ほど言ったように高額なものですので、すべての教室にというのは難しいと思います。
教育総務部長：電子黒板やテレビ的なものを各教室ごとに今後は置きたいということですか。
千川中学校校長：そうですね。ただ、コストが一日中の中でどのぐらいを占めるかというと、ずっとということはないと思います。テレビをまず 1 台、電子黒板が各フロアに 1 台、2 台あればいいと思います。2 台あると少人数で授業を分けたときに、片方にはあるけど片方にないというのは困るので、各フロアにだいたい 2 台、複数台あればと思います。
教育総務部長：さっき先生が言ったように、数学の時間はこの教室というふうに、教科で教室を決めて、そこはもうデジタル黒板を使って、授業を行うというように決めることも可能ですか。
千川中学校校長：可能です。それを実は数学の教員はしたいと思っています。使えるのだけれども、今、電子黒板が理科室にしかないので、理科室が空いていれば、それこそ数学でもそこに行って授業をすることができます。そういう意味で理科室とか特別教室でやる教科はそこにあればいいのですが、数学、国語、英語のように普通教室でやったり、または少人数で分かれたりするのであれば、回転移動は難しいので、複数台、各フロアにあればいいと思います。それか本当にタブレット型ということで 1 人ずつ使えるようにすれば１番いいと思います。
飯塚委員長：学校運営課長、ハードの責任者としていかがですか。

学校運営課長：電子黒板については、活用の仕方は何となくイメージがありましたが、テレビについては、今日、一番後ろから見ても大きく見え、きれいで、要するに活用の仕方というのが、ソフトも使ってパソコンとも連携ができて、こうやって使うんだということを実感しました。先ほどの理科の光合成の授業では、先生が「テレビのは線が同じくらいだけれども、あえて強調して黒板ではこうしましたよ」というような形でお話しされていまして、ああ、そうか、黒板もこういう形で併用できるというのが分かりまして、その点、非常に今日は大変有意義でございました。
千川中学校校長：子どもには黒板がやっぱり必要です。先ほどご指摘いただいたように、ノートを取らせるのに、例えばテレビの画面に載っている、これを書きなさいと言うと、子どもはどのぐらいの時間で書けるかというときに、先ほどのように教員が一度黒板に書いてあれば、同じように書けます。子どものノートが大事な一つの学習の見直しというものとするならば、黒板で教員が書くというのもとても、私は並行して大事なことだと思います。
学校運営課長：そうですね。学習していく上ではノートというのは大切だと思います。本人の勉強してきた過程や、自分の理解の過程がたどれるので、そこで先生が見れば、不足している部分も分かるのだと思います。
千川中学校校長：管理職として私も授業を観察して教員に指導する際に、いい授業かどうかを見るのも大事ですが、子どもがきちんと理解できているかどうかというのはノートで決まります。複数の子のものを見て、同じように書けているということは、同じような指導に子どもがきちんと理解しているということです。ですから、いくらデジタル化されてテレビの活用が進んで、映像の方がインパクトに残るかもしれませんが、後で振り返るのには、やっぱり黒板に書いて手で作業をさせることが大事だと思います。それの基本である教員が黒板に書くということは必要なことだと思っています。両方を使うように、できるだけ指導しています。画面上をいじって説明をして、「はい、次」というふうにはいってはいけないと思います。大事な子どもの声が、つぶやきがあれば、それを黒板に書いて、もともとの絵を描いたり文字を書く大変さは映し出すべきです。だから、「写しなさい」という板書の中身も、教員が先に自分で書いて、それこそ画面に映して、データを持ってきて映しておいたり、子どもの生のつぶやきを打ち込んでもいいのですが、黒板に大事なものはきちんと書くようにすべきであると思います。黒板はやっぱり必要です。
和田委員：電子黒板が主体になってしまうと、先生も忙しいし、子どもも忙しくなってしまうと思います。単元をまた戻したりして、要するに子どもがノートに取ることにおいても忙しくなってしまうと思います。
千川中学校校長：全部テレビの中のものを写させるとすれば、あの１台に１回ぱっと出て、「いいかい？　じゃあ、次の場面だよ」と言って切り替えてしまうと、子どものノートを取る時間というのは難しいと思います。
和田委員：両方うまく活用できる、それだけの技術というか、先生方のソフトの面が大切

だと思います。
飯塚委員長：よろしいですか。ソフト面からはどうですか。
統括指導主事：活用の点から言うと、今日の新聞記事を大きくするということで、それでも効果が十分あると言えると思います。それから、あとは動くということが挙げられると思います。今日の生徒の反応に、最初の教室の理科の授業でもあったのですが、画面が切り替わった瞬間に子どもの視点がすごくびっくりして、動きがあると思いました。それから人材育成にかかわってくるのですが、どの先生も苦労なく活用できるという状況を、教育委員会として人材育成をやっていかなければいけないと思います。それから、今お話のあった通り、デジタルテレビだけではなくて、黒板と、要するにアナログとデジタルの情報をうまく組み合わせて、授業に生かしていくことが必要だと思います。それから、教室の環境として、いつでも使えるということです。これらを進めていきたいと考えています。特にアナログとの併用は非常に重要ですし、デジタル機器の活用は、私は料理の調味料のようなものだと思っています。例えば、おいしい料理に適度にうまく調味料を利かせればさらにおいしくなりますし、利かせ方を間違っていれば、料理をだめにしてしまいます。授業も同じで、授業そのものに効果的に活用することによって、これまでの授業がさらに広がるということだと思います。
飯塚委員長：教育総務課長はいかがですか。
教育総務課長：昨年の教育に関する事務の点検・評価委員会の学校視察で西巣鴨中学校に行ったとき、委員の皆さんからデジタルテレビ・電子黒板が主体になるのではなく、板書も取り入れながら、より良い授業を探っていくというご意見があり、それが千川中学校で生かされていると感じたのが一番です。また、校長先生の方から、実際に電子黒板を使いたい先生がいて、フロアを移動しなければ使えないような状況があるのなら、それを真摯に受け止め、希望する学校には必ず電子黒板を配置できるようきちんと予算要求すべきであると感じました。
飯塚委員長：校長先生も一生懸命にやられていますし、大変力強い言葉をいただきました。さきほどのノートの取り方ですが、ノートの取り方は一様でなくてもいいのです。というのは、本当にできる子というのは先生が書いているようなものはあまり書かないのです。教師の話しているポイントをきちんと書いている生徒がいるのです。私が、「何、おまえ、ぽかんとしているんだ。書いていないじゃないか」と怒ったら、「先生、俺は先生の言ったことの中のポイントと思われるものを全部書いているよ」と言いました。その子はずば抜けて成績がいいのです。そういうこともサゼスチョンできるかどうかということが一つと、もう一つはノートがきれいに取れるということを否定してはいけません。ノートがきれいに取れる生徒は、やっぱり成績がいいです。そういうことを感じました。
　学校全体の取り組みとしては、今日は一部しか見ることができませんでしたが、校長をはじめ大変意欲的な姿勢ということをひしひしと感じましたので、ぜひそういう方向で進んでいただきたいと思います。問題は、得意とする教員が異動した後、活用はどうなのか

ということです。これがやっぱり大きな一つの課題だと思っております。それから、私は、新聞記事は１つでは能がないと思うのですが、いかがでしょうか。
千川中学校校長：今回は最初子どもたちに、生徒会の役員が切り抜きをして、印刷をして配ろうと思っていたら、教員のほうからデジタルに映したらどうだという提案がありました。全部スキャナーに入っており、日替わりで 1 個ずつ入れているのですが、それを例えば午前と午後に変えてとか、要するに回数は増やせられるのではないかということと同時並行で、1 度見たけどゆっくり見たいというものもあると思うので、やはり映ったものをまた掲示されるシステムや、玄関のスライドショーになっているものに展開して、常に見られるようにしたいと考えています。
飯塚委員長：その日の新聞記事の中で重要なものは１つだけではないと思います。子どもはみんな関心が違っているわけですから、時間を切って変えてみるとか、委員会みたいなものをつくって、生徒に選択させてみるとか、そういう工夫があればもっといいのではないかと感じました。
千川中学校校長：実は来月の 9 日の土曜日に道徳の授業公開講座を本校は考えているのですが、そのときに被災地から、2 週間、岩手で取材した朝日新聞の記者を呼びます。全校道徳の予定なので、それに向けてああいう記事を見ていくという、子どもの意識付けのために今回は配信しました。もしかすると、朝日新聞を本校は取っているので、切り抜いた記事を書いている記者が仮に来れば、またそれも一つ、子どもにとっては、興味・関心を引くので、記事は相当切り抜きました。
飯塚委員長：それはその通りだと思いますが、もう一つ大事なのは、新聞記事を読む場合には批判精神も大切です。現地で撮影して、記者はどうしても主観が入りますから、そういうものを前提にして記事を読んで、見てみることも重要です。そういう姿勢を指導するのもこれからの教育として非常に重要ではないかと思います。同じく今日の違った新聞では違った関連から書いていますから、これも大事だと思うのです。そういうことでぜひ多面的に生徒が物事に対する見方を、機器を使ってぜひ深めていただければと思っています。
教育総務課長：他にご意見等はございませんでしょうか。なければ、これでこの部は終了させていただきます。

②朝日小学校
飯塚委員長：電子黒板についての評価はいかがですか。当然高いものを購入したわけですから、それをどう活用しているか、評価するのが管理職の重要な役割だと思いますが、いかがでしょうか。
朝日小学校副校長：各教室に入れていただいているおかげで、書画カメラのような手軽に使えるものに関しては、どの学級でもほぼ毎日使っております。私も校長もほとんど毎日、授業観察に行っていますので、使っている頻度に関してはほぼ毎日と言って間違いないと思います。先ほど申しました教材を作り込んでいくという段階のところに、教員は全員差

し掛かっておりまして、研究授業に今、取り組んでおります。それを通して教材を作り込むというところが、だんだんスキルアップしてきているというふうに感じております。
飯塚委員長：今の取り組みですね。デジタルの教材を使って子どもを指導することは非常に重要なことだし、また必要ですけれども、その質の問題は管理職から見ていかがですか。
朝日小学校副校長：最初のころは、電子黒板を使いたい、使いたいという思いが先行したので、45 分の中で、かなりな分量で使っていく授業というのも、実際昨年あたりはだいぶありました。でも、それは子どもたちの学習に照らしてみると、さほど効果がありませんでした。それから、集中力の問題や考えが深まっていくというところでは、あまり効果がないということが分かってきて、今は導入のところで効果的に使うというのが、我が校のスタンダードになりつつあります。質は昨年に比べて、使えば使うほど高まってきていると思っております。
飯塚委員長：各委員の皆様はいかがでしたでしょうか。
壷内委員：どうも今日はありがとうございました。入った瞬間から、ずいぶんきれいだなというのが第一印象にありました。電子黒板の使い方として副校長先生から導入の使い方を今やっている最中ということで、非常に子どもたちが伸び伸びと授業をしている姿を見て、先生方が使い慣れていると感じました。子どもたちと一体となって授業をしてほしいと思っております。電子黒板の使い方は、先生方がいろいろな工夫をして、具体物を作って、わざわざ前でやるのと違って、非常にそのあたりが時間的なロスになります。ただ、子どもたちの身近なものが出てきて、より多くの問題を解くことができることはメリットだと思います。それから、先生方が子ども一人一人にかかる時間、今日は机間指導をやっていましたが、あれも非常に有効な電子黒板の効率化になると思います。ああいうものをきちんと使いながら、子どもたちと向き合える時間も確保されるのではないかと思います。そして、子どもたちのいろいろな発想、いろいろな見方、考え方を広めることができ、ほんのわずかな時間でしたけれども、だいぶ広がりを、特に小学生の場合は中学生と違って、まだまだ白紙の状態ですから、将来展望、教育の展望という感じで授業を拝見させていただきました。
和田委員：3 年生の私たちの住む町で、池袋の駅の写真を映し出していました。あんなふうに具体的に絵で見ると、朝日小学校辺りの違いを教科書と写真を見てやるのでは全然違うということを感じました。
　それから、先生方が電子黒板に慣れているか慣れていないか、使い勝手というか、逆に使われてしまっている気がしました。ほんの数分ですけれども、電子黒板を使うではなくて、電子黒板に使われているというか、言葉は適切かどうかが分からないですが、その辺の雰囲気を少し感じたクラスもありました。やはり先生のソフトの面の使い方というか、結構時間のロスがあるような気がしました。マウスを操作したりペンでタッチしたりするので仕方ないのですが、その時間のロスをいかに少なくするかということが大事だと思います。子どもたちの集中力を途切らせないという面もあるとも思いますし、その辺がやは

り先生方はもう少し、使い慣れるということが大切だと思いました。
　それと、もう一つは、パソコンの台の低さです。先生が腰をかがめて、操作をするのはどうなのかと思いました。もう少し良い場所にパソコンを置けないのでしょうか。腰も痛くなるだろうし、子どもも下で操作していました。今から台を変えるのは難しいのでしょうか。もう少し目線のいい位置でパソコンが操作できたらいいと思いました。
飯塚委員長：学校運営課長、いかがですか。
学校運営課長：私は、図形を動かせるというのは面白いと思いました。また、書画カメラを利用して、先生が丸を付けたりしたものを直接画面に配置するというのは、千川中学校長もおっしゃっていましたが、実際に書いて見せるよりは書画カメラで画面に映し出したほうが分かりやすいという実感ができました。
飯塚委員長：統括指導主事、いかがですか。
統括指導主事：やっぱり活用ということがメインですので、使い方だけではなくて、使わない部分での授業を、どう質を上げるかということと併せてやっていく必要があると思いました。
飯塚委員長：学校施設課長はいかがでしょうか。
学校施設課長：私は学校施設課長ですので、トイレの話をさせていただきます。1 階、2 階、3 階まで全部 1 列整備すると、2,000 万円ぐらいかかります。お金がかかりますが、トイレは暗いし汚いしで、我慢してしないという子もいると聞きましたので、それが楽しくなったという話を今日聞いて、本当によかったと思いました。
飯塚委員長：ほかの学校の予定はどうなっているのでしょうか。
学校施設課長：まだまだこれからです。
飯塚委員長：ここが一番先の整備なのでしょうか。
学校施設課長：ここが第 1 弾です。昨年度から始めて第 1 弾です。
飯塚委員長：教育総務課長はいかがでしょうか。
教育総務課長：ここは少人数ということで、教育支援員が配置され、教育環境としてはすごく恵まれていると思いました。先生は少なく対応は大変だとは思いますが、そういうメリットを生かし、デジタルテレビや電子黒板については他の先進事例を参考にするなど、もっと活用していただければ良いと思いました。
飯塚委員長：教育総務部長も一言お願いいたします。
教育総務部長：和田委員からもご指摘がありましたが、マスに言葉を入れて組み合わせ言葉をつくる授業は、直接書いた方がスムーズに流れるし、見ているほうも分かりやすいと思いました。
和田委員：あれは直接書くこともできるのですか。
朝日小学校副校長：書くことはできます。
和田委員：それでは、直接書いたほうが確実に回りますね。
朝日小学校副校長：ペンの傾きで線がなかなか出にくいというのもあるので、電子黒板上

だと文字を書くと美しい形になかなかなりにくいということがあります。1 年生なので今日は文字を選んでやっておりました。
教育総務部長：教材の開発も必要かもしれないですね。
飯塚委員長：サンシャインから西だ、東だ、北だ、南だとやっていて、あの図面からだけ判断するのは、とても危険だと思います。実は「西のほうに商店が多い」と子どもが言っていましたが、それが本当かどうかを、あの写真から判断ができるのでしょうか。
朝日小学校副校長：一昨日、サンシャインの展望台から見てきましたので、今日はその振り返りの授業ということで、電子黒板の写真を差し込んでいる授業になりました。
飯塚委員長:もし､B 子さんの言っていることが本当だということならば､そこを拡大して、確かに商店が多いということを見せるのが電子黒板の一番の活用法なんです。今日の授業は平面的な活用だと思います。そして、説明したことが納得できれば、電子黒板は安い投資だと思います。
教育総務部長：地図情報ソフトを使えばいいのではないでしょうか。
飯塚委員長：これは地域の見方、考え方が教師にちゃんとできているかどうかという問題だと思います。今度実際に見に行くときは、そういうところをきちんと見る視点を与えてあげることが大事です。というのは、小規模校で先生が学年に一人しかいないというところでは、先生の当たり外れがあるからです。いい先生ばかりならいいのですが、1 人しかいない、複数の教員がいないという学校は、一層そういう管理職としての配慮、あるいは研修など 40 分の授業の中で本当に一人一人の子どもに役立つということは、いったいどういうことなのかということが、これからの学校教育で問われるのだと思います。アカウンタビリティーとは、もう 40 年も前にボストン市で始まりました。業界からの要請でハードは文部科学省が教科書を見ずにどんどん入れます。ところが問題はソフトです。ソフトの開発にはお金が掛かるし時間もかかります。そうすると学校は費用を掛けた、投資しただけ子どもに還元したかということが、最初にボストンあたりから発せられました。日本にもだんだん入ってきて、せっかく高い機械とソフトを入れるのだから、それに見合った効果というものを、どれだけ説明ができるかということが、やっぱりこれからの、本当の意味での学校の質が問われる時代になったと思います。ぜひ活用の工夫といいますか、そういうことをぜひ副校長さんから強いご指導をお願いしたいと思います。
和田委員：私たちの住む町の授業で、例えば「Google」などのストリートビューや航空写真などを取り込むことはできるのですか。
朝日小学校副校長：できます。見せることはできます。
飯塚委員長：そのときは新聞社が航空写真を持っているから、電話をすれば、すぐに持ってきてくれると思います。
和田委員：そういうものを取り込んで、もっと細かくするといいと思います。
飯塚委員長：新聞社等と連絡をとりながら、学校が子どものために有効に活用することが大切と考えます。学校が主体性をお持ちになって、一人一人の子どもに力を付けなければ

いけません。そのために学校としてどれだけ努力を払うか、そういうことが、これからの大きな課題だと思います。これは何も朝日小学校だけではなく、全国の各学校がこれからはそういうことが問われると思います。
教育総務課長：他に何かなければ、これで終了させていただきますけど、よろしいでしょうか。
飯塚委員長：次回は７月６日の３時でお願いいたします。お疲れさまでした。

**・提出された資料**
資料Ｎｏ．２－０１　教育に関する事務点検評価委員会学校視察について
資料Ｎｏ．２－０２　学校視察評価表